

28 水産土木【選択科目Ⅱ】問題（1設問2枚以内 横 24×25 1200字以内）Ⅱ-2-1 流通拠点となっている漁港において、今後・地震津波による被害を少なくすると共に、仮に被災しても早期に漁港の機能が維持回復ができるようにBCP（業務継続計画）を策定しておくことは重要である。あなたがこの業務の担当責任者として進めるに当たり、下記の内容について述べよ。

(1)業務に当たって調査・検討すべき事項 (2)業務を進める手順 (3)業務を進める際に留意すべき事項

(1) 調査検討すべき事項

25 ②発災後の対応

地域にて想定される対象大規模災害について整理するとともに、既存資料及び既往の知見等を活用して漁港施設等の被害規模を算定する。

漁港管理者及び漁業関係者など発災後に実施すべき事項を、被災後の状況に応じて整理し、実施体制についても取り決める。

5 1) 想定される大規模災害の整理及び被害の想定

③本計画の背景と基本情報

・被害外力の設定

30 なぜ計画が必要なのか背景を整理することに加え、漁港BCPに関わる関係機関の役割を明記する。また、漁港港勢等基本情報を整理する。

対象県地域防災計画等の最大クラスの地震、津波を用い対象漁港の災害外力として設定する。

・津波浸水予測図等により、漁港周辺の最大浸水深から、漁港施設等の被害想定を行う。

④被害想定

県ハザードマップから、想定地震・津波から被害想定を行う。また、津波到達時間を整理する。

2) 避難対策施設・避難対象者等の整理

⑤被害に対する準備

地域防災計画の内容を踏まえ、避難場所・避難対策施設、避難経路について現地調査及び既存資料により整理する。

発災後の対応に資するため、資機材・人員確保、消防体制等について整理する。

15 なお、避難対象者の分布人数等については、地元自治体や漁協からのヒアリング等で把握する。

⑥計画の点検及び見直し

40 防災訓練の定期的な実施により点検、見直し計画を設定しておく。

また、釣り客等の漁港来訪者についても同様にヒアリング等で把握する。

⑦漁港BCPの課題

漁港BCP策定の過程で取りまとめた内容の留意点や課題について整理する。

(2) 業務を進める手順

20 漁港BCPの策定手順を以下に示す

①作成項目の確認

45 (3) 業務を進める際に留意すべき事項

漁港の機能に応じた作成項目を検討する。具体的には、流通・防災拠点漁港やそれ以外の漁港など機能にマッチングさせる。

水産物の継続的な生産・流通は、水産物の漁獲から出荷・流通に至る過程を一体と捉える必要があることから、関連する全ての主体の参加を基本に据える。